

2017年7月25日

2017年度第7回Jリーグ理事会 定例会見 発言録

2017年7月25日(火)17:20~18:00

[司会より]

決議事項、報告事項は以下のとおり

《決議事項》

1.ノエビアスタジアム神戸はハイブリッド芝のピッチ内施設の件
トライアルでテストをしていたが、正式に導入を認めて決定した。詳細は資料のとおり。

※※YBC ルヴァンカップの来年度以降の大会について

本日リリースは出していないが、YBC ルヴァンカップについて。

2018年以降の大会方式について大会方式を変更する。これまではグループステージはACL出場クラブ以外の14または15クラブが2組に分かれて上位2、3位がプレーオフに回り、1位は決勝トーナメントに進出。来年については全部で16クラブがグループステージに参加。4チーム4グループになり、J2クラブが参加することで本日、決議した。

J2クラブは前年度(来年の大会で言うと今年の)J1・16位と17位がルヴァンカップグループステージに出場。ただし、ACLのプレーオフでJクラブが敗戦し、本戦に3チームが出場する場合は、J2の参加クラブは1クラブでJ1・16位のみ。

詳細は大会規定、その他、変更の作業があるので、そこで改めてプレスリリースを出す。本日は口頭だが、お知らせをした。

《報告事項》

1.後援名義申請の件

- ①スルガカップ 2017 静岡国際ユース(U-15)サッカー大会
- ②U-12 ジュニアサッカーワールドチャレンジ 2017
- ③第10回大宮アルディージャ ORANGE! HAPPY!! SMILECUP!!!
- ④日本電自動車椅子サッカー選手権大会 2017

①②例年通り、後援をする。大会概要は資料を参照。

③はパラスポーツ。後援をする。大宮の大会でのイベントには原副理事も参加する予定。

④パラサッカー。例年後援をしている。9月~10月に静岡で開催。

※その他

理事会の件とは別件でV・ファーレン長崎に対する制裁決定について。本件はJリーグ経営本部・本部長の鈴木から説明する。

〔鈴木本部長より説明〕

昨年来、Jリーグで長崎のコンプライアンス調査をしてきた。最終的に本件(入場者数水増し)を問題事項として裁定委員会にはかり、チェアマンの制裁を決定。

1.長崎の公式試合入場者数発表上乗せの件

(1)制裁内容※資料参照

①けん責(始末書をと、将来を戒める)、

②制裁金300万円

(2)適用条項

資料のとおり。

2.違反行為の内容

(1)具体的な違反行為の内容だが、長崎は2015シーズン開幕から2017シーズン第6節までのホームゲーム全46試合中45試合において、入場者数を少なく見積もって約2万人を上乗せして発表していた。

(2)具体的には、入場者実数を発表すべきものを、運営関連スタッフ、入場券を持たない無料観客等を入場者数に上乗せして発表していた。

3.制裁理由

制裁理由の(1)(2)(3)は割愛。

2010年に大宮で入場者数の水増しで2000万円の制裁金があったが、2000万円と300万円の違いと(4)を説明する。

大宮のケースは約3年間にわたって水増し総数は11万人だった。本件は約2年間で2万人。実数が1/5だということの一つ。二つ目は(4)について私どものコンプライアンス調査を行ったが、長崎の内部調査の自己申告だった。大宮の場合は外部からの指摘と報道が先行し、リーグ全体のレピュテーションが非常に揺るがされた事案だと承知している。今回はチームからの自主申告。加えて、大宮のケースはマネジメントも関与したある種、組織的な不正だったと承知しているが、今回は入場者数算定ルールに関する担当者の認識不足によるものだと考え、最終的には300万円の制裁金ということで裁定委員会にはかり、チェアマンの制裁を決定した。

〔村井チェアマンからコメント〕

こんにちは。ご承知のように7月15、22日に明治安田生命ワールドチャレンジを行った。

浦和对ドルトムント。鹿島対セビージャ。時を同じくしてセビージャはC大阪との試合も行った。

埼玉スタでのドルトムント戦は今シーズン最多のお客様をお迎えできた。鹿島も今シーズン最多のお客様に観戦いただいた。シーズンのプレーオフ、先方では休暇期間中ということもあり、どれだけ本気の戦いになるか心配していたが、直前まで交代枠の激しい折衝やピッチの水撒き方についても、激しい応酬があった。この試合にかける両クラブの本気度は感じていた。結果的には浦和が敗れ、鹿島が勝ったが、一定の手応えを感じる事ができた。視聴率などの議論もあるがCX(フジテレビ)での全国地上波の中継で、浦和对ドルトムントは6.4%。一方で鹿島対セビージャはおよそ10のインターネットチャンネルでライブ配信を一斉に同時に行なうという世界で類をみない試みを行った。こうしたライブ視聴者は(速報値で)約130万人くらいがネット配信で見てくれた。いくつかの我々としては実験も一定の手応えを感じる事ができた大会だった。ご協力ありがとうございます。このあと、後半戦が再開されるが、均衡したタイトル争い、残留争も激しくなるかなと期待している。

[質疑応答]

Q:ハイブリッド芝の導入は、今後オリンピックの開催もあって試合数が多いことで芝生にダメージが生じることを考慮してとのことか。

また長崎の件を受けてのコメントをいただきたい。

A:村井チェアマン

ハイブリッド芝については、アシスタントレフェリーの動線で実験を行った。いくつかのテスト結果がデータとして共有された。

安全性、強度の側面においても十分使用に耐えうる一定のデータが得られたため、ピッチ全面での施行に移る。

芝の養生を理由にサッカーだけしかできないよりは、稼働率が上がって多くの競技団体やコンサートなどによる利用目的を広げることが、我々にとっても結果的にプラスとなる。今回の導入で良い成果が得られればと思う。

長崎の件については、Jリーグ創設以来、正確な入場者数をカウントすることは興行面での把握というよりは、一人一人のお客様に感謝の気持ちを持つということが発端だと伺っている。結果的に不正確な数字が計上されたことは大変残念なこと。

2015シーズンから2代の実行委員をわたり少く見積もって2万人程度の入場者数の誤りがあったことは大変残念なことだと思っている。

新しい経営陣が指揮を執っているが、健全化に向けて全力を尽くしていただいている。その中で自らは是正の調査が行われてと認識している。早く健全化することを願っている。

Q:入場者の算定ルールの認識不足とのことだったが、何年にもわたり入場者数のカウントは一人の担当者が行っていたのか。

クラブとして気が付かない、教育できないのはどういうことかと思ふ。

A:鈴木 経営本部長

担当者について、我々が報告を受けている限り一人だと認識している。調査のプロセスで、現体制

の長崎から過去の実行委員も含めて確認しているが、残念ながら過去の実行委員については、細かい認識が希薄だったことがあげられる。

担当者についてもルールの理解が足りなかったことを、改めてクラブから伺っている。ただし既に担当者もクラブを去っている。今申し上げた以上のことは現体制では調べられなかったと報告を受けている。

村井チェアマン

二代の実行委員に渡る期間で 2 万人近い水増しがあったことは、経営体制が変わって明確になったが、プロセスにおいて把握できなかったことは残念なことだと思う。

Q:観客数の水増しは、長崎だけでなくどこにでも起こりうる問題だと思うが、定期的にリーグで抜き打ちでのチェックを行うなどの仕組みがあるのか。

A:村井チェアマン

現状では定期的に抜き打ちで事実を調べるようなことはやっていない。

担当者が変わることはあり、カウントの方法の詳細は相当規定で細かく明示している。解釈の誤差で言い訳できる内容でない。

黒田 フットボール本部長

大宮の件の後に規定を見直した。カウントするべき人、発表するべき人の設定、運営面では運営本部のホワイトボードにしっかりとカウントを記録することを徹底するようにしている。今回は運営担当が変わったことでクラブ内の引継ぎが出来ていなかったことが散見されている。

全クラブに周知徹底して同じことが繰り返さないようにJリーグとして注意喚起していく。

Q:ルヴァンカップの大会方式について。J2から 2 チーム入れることになった経緯と理由は。対象クラブについては日程が厳しくなると思うが。

A:村井チェアマン

AFC チャンピオンズリーグ(ACL)でグループステージ、ラウンドオブ 16(R16)を戦って、ノックアウトステージを戦うクラブがある中、ルヴァンカップにおいて ACL に出ているクラブも出していないクラブもイコールコンディションで戦うことがフェアであるということで、両大会の競技日程を近くにしている。そういった意味で国内の大会も R16 で戦うというわかりやすい大会方式にすること、グループステージが 7 節ある中で、グループステージの終盤が消化試合(消化試合については後に村山広報部長より補足あり)になってしまうことも見受けられる中、4 チームを 4 グループに分けるわかりやすいグループステージを ACL と裏・表の日程で行うことで消化試合がなくなる、ということで新たな大会方式の合意を得た。

16 チームにするために最大 2 チームをどう輩出するかをいろいろな観点から議論してきたが、競技力の近さということで、J1で前年まで戦っていた 2 チームが一つの案となった。

競技日程上、J2は試合日程が多く、タフな試合が予想されるが、メリット・デメリットの議論の中ではルヴァンカップにおいては若手が出場機会を得てそこからリーグ戦に出場する選手が出てくるのでは、といった比較的ポジティブな意見が出た。

来シーズンから降格救済金が配分されるが、財政的な基盤も含めて降格チームが良いのではないかとということが総意だった。

村山広報部長より補足

消化試合という言葉があったが、次のラウンドに進出する可能性の無いチーム同士の対戦ということで消化試合ではない。

Q:長崎の件で詳細の確認をしたい。大宮との違いについては、発覚したきっかけはJリーグのコンプライアンス調査がきっかけなのか。大宮との違いはどの程度あるのか。

水増しには何か意図や、目的があったのか。

担当者が一人だったという認識不足というのは、単純に加えてはいけない人を加えたという意味での認識不足という解釈でよいのか。

A:鈴木経営本部長

大宮について詳細は承知していないが、外からの指摘、報道が先行した後でリーグの調査が入った。長崎については様々なコンプライアンス関連の調査をしている中で、入場者数に問題があるのではないかとすることを、Jリーグの調査の一環の中で気が付いたということが発端となる。

それがわかった時点で、4月のホームゲームからは是正をし、ジャパネットに引き継がれるタイミングだったため、ジャパネット側で入会まで遡って精査していただいて、自主的な報告をしていただいた。意図については、長崎からの報告を聞く限り、担当者レベルでは、上からのプレッシャーの中で入場者を水増ししたという証言をしているが、一方でその間の実行委員に長崎から直接確認した中ではそのような指示はいっさいしていないという説明をしていただいた。

認識不足については、数えてはいけないものを数えていたということもあるが、一部目分量で報告したという言葉も調査の中で出てきた。数えるもの、数えてはいけないものの分別が担当者レベルできていなかった。

Q:各試合細かく数字が出ているが、少なく見積もって2万人とはどういうことか。

A:鈴木経営本部長

裁定委員会の中で委員からの指摘があり、制裁を加えるにあたっては制裁を受ける対象に罪刑法定式に申し上げると、有利にという誤解が生じるかもしれないが、有利にカウントするべきというご意見を頂戴した。

正式にカウントした委託業者のカウントにおいては、VIP についてカウントしているが、VIP の証拠が残っていない。VIP がいなかったということは無いが、VIP がゼロの場合は 24,000 人が水増しした数字となる。

水増した 2015 シーズンの前のシーズンには VIP の記録が残っており、2014 シーズンの記録を見ると一番多い試合が 100 名弱だった。2015 シーズン、2016 シーズンも 100 人弱 VIP がいた場合は、合計で 4,400~4,500 名の VIP が来場していたこととなる。そのため、リリース上では少なく見積もって 2 万人弱という書き方となっている。

村井チェアマン

確実にその程度の水増しはあったという理解となる。

Q:資料を見ると 1 試合だけ正確な数字があるが、これはどういう理由か。

A:鈴木本部長

全データ検証したが、データが残っていなかったため、すでに発表されている数字を適用して更新していない。

Q:長崎の件で加えて、担当者の話の中で上からのプレッシャーがあった。一方で実行委員=社長ということになると思うが、そういう説明はしていないとしている。両方説明が出てきた中で、実行委員はそういう意向はなかったと言っているが、いわゆる意図的ではないというニュアンスに聞こえるが、具体的に上からのプレッシャーとはどういうもので、実行委員以外の現場レベルの人で話を聞いていないのか。一方的に実行委員の意見を反映しているのではないかなと思うが。

A:鈴木本部長

私どもが報告いただいている範囲では具体的にどういふプレッシャーがあったというのは聞いていないが、一般論で申し上げれば数を多くみせたいという上の意向、これは私の言葉で申し上げているが、そういったものを斟酌して暗黙のプレッシャーに感じて、数え方の勘違いも含め、このような行為を及んだと担当者レベルでは報告を受けている。繰り返しになるが、そのことも含めて現体制で退任した実行委員にも確認はいただいたが、指示はしていないと報告を受けている。指示があったというのは断定できる立場ではないということになっている。

(どちらの意見を取るかで意味合いが全然違ってくると思うが?)

村井チェアマン

担当者の方も具体的に改ざんするように指示を受けたというのは言っていないんだよね?

鈴木本部長

担当者も具体的に改ざんの指示を受けたことは言っておりません、

Q: 制裁に関しては、観客数が多ければ付加価値がつくと思うが、そういったものを一切見せかけようとしたという意図がなかったという上での制裁ということでもいいのか。

A: 鈴木本部長

長崎で調査をして報告を受けた範囲では、今おっしゃったような意図に関する言及は一切ございませんので、このような内容で報告している。

Q: ①長崎の件に関して、大宮と比べることがおかしい点があるのでは。制裁内容を大宮はこうだったので、それを鑑みてということよりも、そもそも「水増し」という行為に対する罰則規定であるべきではないかと思うが？

②ワールドチャレンジは大変いい試合だったが、あの試合を発端にしてバトルのような状況となり、SNS である議員の発言も「くたばれレッズ」というようなところまでいってしまったが、この件に関するチェアマンの意見を伺いたい。

A: 鈴木本部長

①ご指摘のとおり、水増しは決して許される行為ではなく、制裁理由にも書いてあるように、まずはそこが問題である。制裁のランクとしてはけん責、制裁金とあるが、制裁金を課している。一方で、裁定委員に意見を賜る中では、似たような事案の前例から踏襲して、どういうふうにかえるのかもサジェスチョンいただき、総合的に勘案してこのような金額となった。

村井チェアマン

②個々の SNS の書き込みについては直接的な言及は控えさせていただきますが、試合結果などについてはいい結果が出ることもあれば、残念な結果になることもある。今回の夏場の戦いも選手もサポーターも本気で戦っていると思うので、選手を鼓舞したり、チームを激励したりするような会話が増えてくるといいなと思う。

Q: 長崎の件。コンプライアンス調査はいつ頃から行い、入場の水増しについてはクラブから申告があったのはいつか。

A: 鈴木本部長

私どもの調査は昨年末、一旦、長崎サイドでの実地調査を依頼したが、調査のプロセスなどを見て直接介入の方がいいと判断をして、年末から 2017 年 1 月に調査をした。細かい日時は諳んじていないが、入場者の件はチーム関係者と思われる方から私どもの調査をお願いした弁護士事務所

に申告がありました。調査は3月末までに完了し、報告書は4月初旬～中旬に頂き、入場者数のことはただちに現場を是正しないといけないということで、当該週のホームゲームから是正した。

了